

総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会（第24期・第5回）  
ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会（第24期・第2回）  
合同会議・議事要旨

1. 日時：令和元年12月15日（日）11:00～12:30
2. 場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市）B棟4FB412研究会室
3. 出席者（敬称略・50音順, 1)は分科会メンバー, 2)は小委員会メンバー）：  
安達基朗(シュルード設計)<sup>2)</sup>, 尾上洋介(日大)<sup>2)</sup>, 加藤千恵子(東洋大)<sup>2)</sup>, 小山田耕二(京大)<sup>1), 2)</sup>, 坂野雄一(NICT)<sup>2)</sup>, 坂本尚久(神戸大)<sup>2)</sup>, 鹿内菜穂(亜細亜大)<sup>2)</sup>, 下條真司(大阪大)<sup>1)</sup>, 鈴木桂子(立命館大)<sup>2)</sup>, 田中覚(立命館大)<sup>1), 2)</sup>, 萩原一郎(明治大)<sup>1)</sup>, 長谷川恭子(立命館大)<sup>2)</sup>, 畠中靖浩(富士通)<sup>2)</sup>, 藤代一成(慶應大)<sup>1)</sup>, 宮地英生(東京都市大)<sup>2)</sup>, 李亮(立命館大)<sup>2)</sup>  
欠席者（敬称略・50音順, 1)は分科会メンバー, 2)は小委員会メンバー）：  
安藤広志(NICT)<sup>2)</sup>, 大倉典子(中央大学)<sup>1)</sup>, 北川千夏(サイバネット)<sup>2)</sup>, 行場次朗(東北大学)<sup>1)</sup>, 越塚誠一(東京大学)<sup>1)</sup>, 高橋桂子(海洋研究開発機構)<sup>1)</sup>, 土田賢省<sup>2)</sup>(東洋大), 明和政子(京都大学)<sup>1), 2)</sup>
4. 配布資料：
  - ・資料1：これまでに本分科会の主催で開催した日本学術会議公開シンポジウム
  - ・資料2：分科会と2つの小委員会活動の今期の総括報告書作成について
  - ・資料3：日本学術会議・提言について
  - ・資料4：話題提供（立命館大学・鈴木桂子教授）：
  - ・資料5：公開シンポジウム 科学的知見の創出に資する可視化（4）
5. 議事
  - (1) 2020年の公開シンポジウムについて（資料1, 資料5）
    - ・ 6～8月の土曜日のシンポジウム（シリーズ4回目）を実施する。
    - ・ 場所は、「日本学術会議講堂」または「慶應義塾大学三田キャンパス」
    - ・ 開催主旨：IEEEのreVise委員会が令和元年10月に打ち出した「エリアモデル」(reVise Committee Recommendations, October 13, 2019)を新パラダイムの素案と位置づけ、各エリア（Area 1-6）を代表する研究者を選出。今後の持続可能な展開に向けて理想的なパラダイム像について参加者全員で深掘りしていきたい。(Area 1 (T&E): Taxonomies, Evaluation, Models, Methodologies, Perception, Area 2 (DSAPP): Design Studies and Application-Focused Research, Area 3 (SARM): Systems, Architectures, Rendering, Modalities, Area 4 (V&I): Visual Representations & Interaction Techniques, Area 5 (DATAx): Data Transformation, Refinement, Extraction, Augmentation, and Management, Area 6 (WDML): Integrated Workflows, Decision Support, and Machine Learning)

- ・ シリーズ第5回のシンポジウムは2020年12月に実施し、これまでのシリーズを総括し、提言に繋がる内容とする。

(2) 分科会と2つの小委員会活動の今期の総括報告書作成について

- ・ 2020年については活動の総括報告書を作成する
- ・ 総括報告書作成の全体の取りまとめは藤代が担当する。
- ・ 「科学的知見の創出に資する可視化分科会」の報告は、小山田が担当する
- ・ 「ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会」の報告は田中が担当する
- ・ 「可視化の新パラダイム策定小委員会」の活動報告パートは藤代が担当する
- ・ 学術の動向特集「科学的知見の創出に資する可視化」(2019/4)を報告に取り入れる

(3) 提言の作成時期について

- ・ 2021年に提言を作成する
- ・ 2020年12月のこれまでの公開シンポジウムを総括するシンポジウムを踏まえて作成

(4) 話題提供：「立命館大学・アート・リサーチセンターの文理融合研究」(立命館大学教授・鈴木桂子氏)

(5) その他

- ・ とくになし